

idea

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2015

12月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～女性の視点で考える地域づくり～
- 4 | 団体紹介～二日町祭神太鼓～(藤沢)
- 5 | 地域紹介～川崎町薄衣 高成自治会～(川崎)
- 6 | 企業紹介～コンカツ印刷有限公司～(一関)
- 7 | センターの〇〇～地域イベントを楽しむ秋～

フタコ×ミコト 第19回 二言三言 28/122,837

女性の視点で考える地域づくり

対談者 千厩着物虫干し会 代表 伊藤京子 さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

非日常を日常に変える きもの物語

【小野寺】今年も千厩きもの物語(以下「きもの物語」)お疲れ様でした。今年で3回目(10月10日開催)ですが、続けてみての手応えはありますか。



千厩着物虫干し会
代表 伊藤京子
さん

【伊藤】お陰さまで、先日3回目を無事終えました。手応えとしては、回を追って着物を着て参加する人たちが多くなり、今回は100人ほどになりました。1回目の時は見もの見物の人たちが多かったようですが、何を着てもいいんだという感覚になってきたと思います。1回目の終了後に参加された方から、「代表さんが気楽に着ていたので参加しやすいですね」と電話をいただきました。参加するために美容院に行くとか、着付けを習っている人たちだけが参加するとなると参加しづらいと思います。最初の出だしとしては良かったのかと思いました。

【小野寺】きもの物語という企画が生まれた時、良い企画だと思いました。最近では着物を着る機会が少なくなり、着物を着ることは日常的なものから非日常的なものに変わることだと思います。非日常の部分をもう1回日常に戻して楽しもうという企画で、着物を着てまちなかを闊歩するというのはすごく良いと思います。

【伊藤】私たち世代は、子どもの入学式や卒業式に着物を着る機会は多くありましたが、最近では着る機会は確かに少なくなりました。私の店は着物を扱っており、着物をリメイクした洋服も始めました。また、裂き織りをしている高校時代の同級生もいて、一緒に着物に

関連した3人展を開催してきました。私は着物が好きで何かある時は着物で出かけるのには抵抗はありません。ある時、店に来たお客様の「着物を着ることが少なくなったね」の話に動かされ、着物を着る機会を考えよう、皆でやればこわくないと思うようになったのです。そうしていた時、いちのせき市民活動センター(以下「センター」)のスタッフさんから「応援しますからやってみたらどうですか」と話をいただき勇気百倍、千厩着物虫干し会(以下「虫干し会」)を立ち上げました。

【小野寺】2年前の5月にそんな話があって、すぐに市の地域おこし事業に応募しましたね。

【伊藤】イベントをやるには宣伝もしなければならない、ちょっと集合するにしても場所代がかかるなどどんな手立てが必要か、センターさんにはいろいろとアドバイスをいただきました。幸いに市の地域おこし事業の補助金を通り、無我夢中でやってきたことを思い出します。

【小野寺】継続して3年やってきて、きもの物語というイベントが千厩の文化の定着になってきたと思います。市広報紙にも取り上げられるようですが、イベントを聞きつけて写真を撮りに来るわけで、それはすごく大きなことだと思います。

【伊藤】あまり大それたことはしていないと思っていますのですが、そのように話していただくとてもうれしく思います。

人のつながりが地域づくりへ広がる

【小野寺】話は戻りますが、虫干し会を立ち上げようと思ったきっかけは何でした？

【伊藤】平成25年5月に千厩本町(もとまち)地区の女性たちで立ち上げました。虫干し感覚で着物を着てまちを歩きまちの魅力を再発見し、できれば地域おこしにもつなげてみようと思ったもので、現在の会員は20名ほどです。

【小野寺】虫干し会という名前は、とてもインパクトのある名前ですね。虫干しという言葉は最近ではあまり聞かなくなりました。

【伊藤】実は虫干し会という名前は、一関の着物好きのお客様からいただきました。4年ほど前に私の店で開いていた展示会にいらしたのがきっかけでした。

「着物を着て出かける場所はそうそうないので、着物をリメイクした洋服の展示会だから着物でもいいかと思いきや着物で出かけて来ました」とお二人が。

話を聞けば、誰でも気楽にタンスに眠らせている着物を着ようと、数年前に10人位で立ち上げた会だそうです。しかし、4年前の大震災後には活動していなかったそうです。いろいろ話しているうちに「応援しますから何かやったらどうですか」と言われその気になりました。そして活動を開始するに当たり、虫干し会の名前を使うことを相談したら「自分たちの特許でないからどうぞ使ってください」ということで、私たちは「千厩着物虫干し会」という名前にしました。



【小野寺】人の縁を感じる良い話ですね。会としてはきもの物語以外の活動って広がりましたか。

【伊藤】毎年10月に行ってきたきもの物語が一番の活動です。10月はウールの着物や袷を着るには適した時期になっています。それ以外には、千厩吊るし雛祭りなどの地域の催しに会員が着物を着て出かけるようにしています。

【小野寺】先ほどの話で今回は100人ほど参加されたそうですが、それは凄い事です。実は週末のイベントに人を呼ぼうとするとなかなか難しいです。100人が着物を着て参加した。それに付き添っての人も同数いる、写真を撮りに来る人もいるのでかなりの数の人が来たと思います。

【伊藤】そう言われますと、参加者の倍以上の人が来ていたんでしょうか。最後に集合写真を撮り参加者に配るのですが、最初の年は30枚位、去年は70枚位、今年は100枚位ですから年々参加者は多くなっています。知名度も高まってきたのかと思っています。

【小野寺】まちおこしは商売の活性化にもつながっていきます。人が出てくるような雰囲気を作り、来たらまちで買い物をする、写真も撮ると商売につながりますね。そうしてきた人にまちの人の協力で、お茶の一杯でも振る舞えることがまちおこしには必要だと思います。

【伊藤】そうですね。そうであれば、こちらでコーヒーカーナーを設けなくても済みますね。少ない会員の中から接客などの仕事も割り振りしているので、人を浮かせるかもしれません。それと、今回、抹茶コーナーには干菓子ではなく、思い切って地元のずんだ大福を出しました。そうしたら好評で、参加された方から

は販売している店を教えて欲しいと言われました。地域の商売にも広がっていただけたいですね。また、今回もセンターさんのつながりで馬車を走らせました。その関連で市役所千厩支所などに相談したところ、支所や商工会議所から人を派遣して手伝ってもらって助かりました。3回やってみて色々なことが分かってきました。

【小野寺】地域おこしの活動を行うことで、たくさんの人とのつながりが出てきます。行政機関などに相談するとお手伝いに来てくれます。どんどん人の輪が広がっていきますね。

さらに広げたい手作りのまちおこしイベント

【小野寺】3回続けてみて手ごたえを感じてきたと思いますが、これからの活動についてどうお考えですか。

【伊藤】私は商売をしているので、ここに居ながらにして何ができるか。そうすると、本町通りしかイメージが浮かばないわけで。ここはまだ区画整理事業もしていないので、昔からのお店が並びます。そして、千厩酒のくら交流施設も近いので、そこを核に本町通りをメインにした催しをしたら、日本の伝統文化にも触れられるのではないかと思います。幸い、千厩にはガイドの会(観光交流ネット千厩)があります。その方々にガイドをしていただければ、夫婦石や大光寺までも行けると思います。

【小野寺】それはおもしろい内容になりますね。さらに煮詰めていくことで素晴らしい虫干し会の催しになると思います。最後に、会の運営についての課題はどうですか。

【伊藤】会員は年配者が多いのでどうつなげていくかだと思います。地域おこしには若い人を巻き込むことが必要だと思います。しかし、若い人は仕事をして家族を持っていたら首を突っ込むことが難しいのではと思います。私達世代が当分引っ張り、次にバトンタッチできたらいいのかなと思います。

【小野寺】その考え方で良いと思います。やれる人がやる、これが大原則だと思います。次の世代に無理して繋げようとするのではなく、自然に繋がっていくと思います。



今年の「千厩きもの物語」の様子

基本情報

【千厩着物虫干し会】

代表:伊藤京子さん

住所:〒029-0803 一関市千厩町千厩字町 158-1

TEL:0191-52-2043(伊惣商店)

団体 紹介



岩渕昭一さん（写真左）と
叩き手の皆さん

～基本情報～

- ◆会長：岩渕 昭一 さん
- ◆連絡先：〒029-3311
一関市藤沢町黄海字天堤 246
- ◆電話：0191-63-3850

世代をつなぐ手作り太鼓

藤沢地域黄海地区の中央部である二日町。地区の名を冠した藤沢地域唯一の創作和太鼓グループである二日町祭神太鼓は、一関市内を中心に県外や海外でも活躍しています。今回は団体の立ち上げから携わり、三代目会長を務める岩渕昭一さんと太鼓の叩き手の皆さんにお話を伺いました。

地域の手作りで始めた創作太鼓

二日町では、毎年お盆に藤沢市民センター黄海分館を会場に二日町夏祭りが開かれます。

「夏祭りで自分たちも何かやってみよう」と考えた二日町自治会の青年部により、平成元年に二日町祭神太鼓は結成されました。「当時は太鼓の経験者もいなくて、見よう見まねで太鼓を作ったり、曲や振りを考えたね」と話す岩渕さん。近年は小中高生の叩き手を中心に活動していますが、大太鼓等の大きな道具以外は今でも団体の皆さんによる手作りです。

団体を立ち上げてからは、藤沢町内の行事だけでなく、結婚式での演奏依頼等も増え、これまでに一関市内の結婚式場は全て回ったそうです。

同時期に、他地域でも太鼓団体の活動が活発になり、他団体と交流する中で、平成5年に磐井太鼓同志会が設立されました。毎年、構成団体の地区を持ち回りで「いわい太鼓フェスティバル」や「日本太鼓ジュニアコンクール岩手県予選会(同会と岩手県太鼓連盟主催)」を開催し、交流を深めています。

思い出の海外公演

岩渕さんが近年の活動で特に印象に残っていると話すのは、平成25年に行われた一関市と姉妹都市であるオーストラリアのセントラルハイランド市との国際姉妹都市郷土芸能団体派遣事業です。

セントラルハイランド市で行われた「多文化フェスティバル」へ同市から二日町祭神太鼓へ招待があり、6,500人を超える観客の前で演奏しました。「現地の方々は初めて見る太鼓に感動した様子だったし、子ども達も大勢の人を前に演奏して自信がついたようだった」と岩渕さんは振り返ります。

みんなに親しまれる太鼓の先生“しょうちゃん”

普段の活動は毎週土曜日の夜に二日町の練習場で練習しています。太鼓を教える岩渕さんは叩き手の小中高生や保護者の皆さんから“しょうちゃん”と呼ばれ、とても親しまれている様子が伝わってきました。

黄海小学校6年生の伊東多香子さんと千葉彩音さんは活動について「いろんな所に行って太鼓を叩いているときや間違えずに叩けたときが楽しい」「中学生になっても続けたい」と話し、岩渕さんも「行事や子どもの成長具合に合わせて振りを考えたり、子どもと交流する中で気持ちが若返る」と活動の楽しさを話します。また、今後の活動について「どの地域でも地元のお祭りには地元団体ということが多いが、他の地域での演奏の機会が増えればと思う。子どもも減ってきたので、黄海や二日町に限らず太鼓を叩いてみたいという人はいつでも参加してほしい」と語っていただきました。



平成25年に行われたセントラルハイランド市の
「多文化フェスティバル」での演奏

地域 紹介



会 長 菅原一夫さん(左)
副会長 上沼清一さん(右)

～基本情報～

- ◆自治会長：菅原一夫さん（1期1年目）
- ◆高成自治会は、50世帯約180人が暮らす川崎町薄衣の集落です。毎年、住民の知恵と協力を集めた見応えのある花壇づくりを通して住民の絆を深めています。

先輩方が築いてきた共助の精神を引き継ぐ地域づくり

薄衣の名は温暖なところから

一関方面から国道284号線を東進し、川崎の中心部を過ぎて間もなく、春から秋にかけて道路左手に見事な花壇が広がる高成集落。今回は花壇づくりを通じて集落のまとまりを高めている高成自治会を訪問し、会長の菅原一夫さんと副会長の上沼清一さんからお話を伺いました。

「この辺一帯は昭和40年代まで養蚕業が盛んでした。気候も温暖なことから蚕を飼うには適していたんだと思います。この地の薄衣（うすぎぬ）という地名もこんなところからきているという説もあります」と会長さん。高成と隣接する矢作（やはぎ）集落とで作る矢作種繭（たなまゆ）生産組合があり、桑の市（桑葉の売り買い）や出荷などの作業を行っていたそうです。かつて桑畑が広がっていた高台の一画には地域の集会所である高成研修センターが建ち、部屋からは集落内が一望できます。

みんなの知恵と協力が集まる花壇づくり

高成自治会は、総務部、教育文化部、社会部、産業部、体育厚生部、女性部の6つの専門部を置き、総務部長は副会長、総務副部長は庶務をそれぞれ兼務しています。また、8つの班に分けており、会長、部長、班長で行う定例会で事業等の進め方を確認しています。

「1月の定例会はなしで、それ以外は曜日に関係なく毎月1日の夜と決めています。覚えやすくいいです」と上沼さん。なお、自治会費は月1000円で、この中には、赤い羽根や歳末助け合いなどの募金も含んでおり、自治会で一括して納めています。

高成と言えば花壇づくりと言われるほど、市花いっぱいコンクールでは毎年上位入賞する常連。お二人から話を伺うと、前年の11月から花壇のデザインを考

えて図面を引き、植える花を決定し、種を用意する徹底ぶりに驚かされます。4月になると種蒔きをし、6月には住民総出で植え付けをします。ちなみに、今年は13種類約1300本の花苗を植えたそうです。花苗の用意は、副会長の上沼さんがリーダーとなり、女性たちも加わり苗作り作業などを行います。「会員の経験や特技を生かし、現地設計が行われています。昨年からは子ども会も加わって一緒に花苗を植えています。子供たちが加わることで賑やかで楽しいもんです」と上沼さんは目を細めます。

世代間交流を通してさらに地域の絆を深めたい

50世帯、約180人が暮らす高成集落。ここは暮らしやすい地域なのか、世帯数はほとんど変わっていないそうです。「先輩方がまとまって部落を盛り上げている姿を子供時分から見てきました。そのことが次の人達にもしてあげたいという気持ちとなり引き継いでいます」と会長さん。歳祝いを兼ねた新年会も古くから続く行事で、集落内の絆をより一層深めるものとなっています。「どこでもそうでしょうが、ここも高齢化してきました。今後は3世代交流を一層進めて、子供から年寄りまで一緒に活動する機会を作っていきたい」と抱負を語る会長さん。来年から花壇づくりには老人クラブ会員も一緒に加われば、より賑やかな活動となることでしょう。



子ども会も交えての花壇の植栽作業

企業 紹介



常務取締役 菅原隆さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：金野 恒久 さん
- ◆連絡先：〒021-0021
一関市中央町1丁目7-16
- ◆電話：0191-48-5963
- ◆FAX：0191-48-5964
- ◆ホームページ：<http://konkatsu.com/>
- ◆E-mail：info@konkatsu.com

ニーズの変化と、価値を高める広報戦略の在り方

創業から36年を振り返って

一関市役所から徒歩5分の場所に本社を置くコンカツ印刷（有）では、会社案内やポスターやチラシ等商業印刷全般、記念誌や封筒等の印刷、ホームページや映像制作を行っており、13名の少数精鋭部隊で事業を展開しています。今回は、常務取締役の菅原隆さんにお話を伺いました。

同社は、戦前から一関で活版印刷をしていた「金野活版所」を前身に、昭和54年に現在代表取締役を務める金野恒久さんが一関市山目中野で創業、平成25年に現在の中央町に本社を移転し、現在に至ります。

「創業からの36年を振り返りますと、印刷業は単色の名刺やチラシ、伝票が中心だった仕事から、カラー印刷、必要な部数だけのオンデマンド印刷、WEBデザイン等に時代とともに変化してきました。さらに企業や各家庭にもパソコンやプリンターが普及し、簡単なプリントは個人でできる時代になってきています。多様化するニーズに対応し『すべてはお客様のために』の気持ちで印刷物を提案していく必要を感じています」と菅原さんは語ります。

ブランディングに力を入れる

「お客様からの依頼は企画・印刷のほか、商品の売上増に繋げるための意見を聞かれるなど、コンサルティング的な対応も求められます」とニーズの変化を語る菅原さん。「広告やWEBでお客様の商品の価値や信頼を高めるような提案が重要になります。印刷を通じてお客様のブランドカアアップのお手伝いで喜んでいただけるよう真摯に向き合っていきたい」と話します。

同社発行の「まちいろは」では、宮城県北から岩手県南エリアのお店を紹介していますが、写真とコメン

トでお店の魅力を伝え、時には「これは何かな？」と読者の興味をグッと引く内容にするため、お客様との打ち合わせを丁寧な、写真一枚に魂を込めて撮影しています。

「何を載せれば読者に伝わり結果に結びつくのか。場合により『この値段じゃ売れないよ』という厳しい指摘もしますが、担当したお客様から『お陰様で契約に繋がったよ』という報告が聞けたら、これ以上嬉しいことはないですね。地域の小さな会社でも、頑張っているところを応援していきたいです」と菅原さんは笑顔で語ります。

1万枚のチラシでPRするには数十万円の費用が必要になりますが、フリーペーパー「まちいろは」を利用するとある程度広いエリアでターゲットを絞った層にタイムリーな情報をリーズナブルに届けることができ、コストを抑えることができます。

地域と企業の繋がりをより深く強く

現在山目地区にお住まいの菅原さんは、地元山目5民区の会報誌の編集委員や体育部長を務めるなど、地域活動にも積極的です。民区の会報誌づくりのお手伝いを始めて早8年、企業と地域の繋がりはより深いものになりました。

「地域の皆さんが気軽に相談できる街の印刷屋さんでありたいですし、それが使命だと思っています。あとは、お店や商品の価値を高めるお手伝い（ブランディング）に力を入れていきたい」という菅原さんの言葉からは、これからも地域と共に歩み、地域の・お店の・人のお役に立ち、応援していきたいという力強い意思が伝わってきました。



コンカツ印刷本社

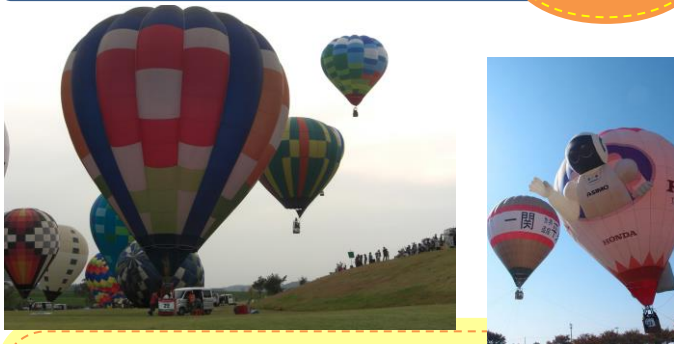


センターの〇〇!

— 地域イベントを楽しむ秋 —

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・そしてイベント目白押しの秋でした。私たちスタッフも地域の皆様と共にイベントを盛り上げ、地域の魅力を発信しました。広い一関市なので、「あの地域のあのイベントに本当は行きたかったの・・・」というあなたのために、今回はセンタースタッフが関わった市内秋のイベントをご紹介します。

一関・平泉バルーンフェスティバル 2015 10月10日



第4回目となる一関・平泉バルーンフェスティバル。今回は、2015熱気球ホンダグランプリの第3戦に組み込まれ、10月10日から3日間開催されました。競技飛行では、水辺プラザから24機の気球が次々と離陸。また、体験搭乗やバーナーの炎と音楽の競演「バルーンイリュージョン」で乗る人見る人の心も浮きます。当日スタッフは、見学者への会場案内や体験搭乗の案内をしました。

千厩きもの物語

10月10日



「着る機会が減った着物をみんなで楽しむ」「昭和の色合いが残る千厩のまちを着物で歩き地域の魅力再発見」を目的に始まった「千厩きもの物語」も今年で3年を迎えました。千厩の名前にちなんだ馬車運行等、内容も充実してきましたが、地域の方々の手作り感あふれる親しみやすさも魅力のイベントです。サテライトスタッフも一日着物で過ごし、参加者の道案内や御抹茶の提供を行いました。

みちのく千厩赤ちゃん相撲大会 10月11日



生後6カ月から1歳半までの赤ちゃんが東西に分かれ、「どっこい、どっこい、どっこいな」の掛け声で2回見合って「笑ったほうが勝ち」というルールで、かわいらしい豆力士による取り組みを行います。毎年、県内外から沢山の赤ちゃんが参加され、今年は海外からの参加もありました。当日センター女性スタッフは巫女に扮し神事の進行を担当させていただきました。

デフ・パペットシアター・ひとみ 11月3日



世界で唯一ろう者と聴者が一緒に創り上げる人形劇団「デフ・パペットシアターひとみ」の公演に参加。聞こえに不安がある方も一緒に楽しめる工夫（手話・映像効果・演出）が素晴らしく、実行委員会の活動を通して、手話に取り組む方達の活動の一端に触れる貴重な機会にもなりました。一関スタッフは、前日から準備に携わり、当日は会場までの誘導係としてお客様をお迎えしました。

一関を知る！ 地域を感じる！

11月も各地域では文化祭や農業祭、収穫祭など多彩なイベントが開催されました。今年は天候にも恵まれ、どの会場も賑わったのではないのでしょうか？まもなく迎える冬本番・・・冬は冬なりの楽しい素敵な地域イベントがあるかもしれません。遠くへ行くのもいいものですが、一関市をゆっくりじっくり楽しむのも、地域を知るきっかけになるかもしれませんね。

おしらせ

室根

第2回おすすめ本「POP」コンテスト

日頃の読書活動の中で心に残った本、勇気をもたらした本、おすすめの本などを用紙いっぱい絵と文字によって1枚のPOP(ポップ)カードで紹介してみませんか。現在、POP作品を募集中です。

- 【期間】平成27年11月1日(日)~平成28年1月31日(日)
- 【場所・問合せ】室根図書館
- 【賞品】入賞者には賞状、応募者には参加賞を贈呈します。
- 【応募時の大きさ】はがき大(100mm×148mm)
- 【電話】0191-64-3820
- 【発表】入賞作品は室根図書館に1か月ほど展示します。

千厩

楽しい「おはなし会」と「ハンドベル演奏会」

読み聞かせボランティアグループ「おはなしばちばち」や図書館員による絵本・紙芝居の読み聞かせ、詩の朗読、歌のおはなし会です。12月19日は、おはなし会終了後にハンドベル演奏会があります。

- 【日時】平成27年12月5日(土)10時30分~平成27年12月19日(土)14時~
- 【場所】千厩図書館ミニシアター
- 【料金】無料
- 【問合せ】千厩図書館(0191-51-1122)

一関

いちのせき100万人のキャンドルナイト2015

手作りしたあたたかいエコキャンドルの灯りの中で、幻想的でスローな夜を過ごしましょう。会場では禅ヨガ(要事前申込)、読み聞かせを行うほか、リース作りやキャンドルアートコーナーもご用意し、皆さまをお待ちしています。

- 【日時】平成27年12月5日(土)17時~
- 【場所】北上川学習交流館あいぼーと
- 【料金】参加無料
- 【問合せ】北上川学習交流館あいぼーと
- 【電話】0191-26-0077

一関

いちのせき住居再生ワークショップ

不便な空き家から二人で住める住居へ!住居の床補修作業を通じて修繕のノウハウを学びながら、空き家を価値あるものにするにはどうしたらよいかディスカッションします。

- 【日時】平成27年12月12日(土)9時40分~16時
- 【場所】一関市萩荘字柵倉
- 【料金】1,500円(保険、昼食代込)
- 【持物】作業に適した服装、軍手
- 【問合せ】いちのせきニューツーリズム協議会
- 【電話・申込】0191-82-3111

川崎

わくわく自然塾アウトドアクッキング

友達と!家族と!オリジナルピザを作りませんか!材料は地元野菜を使用!NPO法人北上川サポート協会では、会員手作りのピザ窯を使ったアウトドアクッキングを開催します。当日はピザのほかにシチューも作りますので、皆さんの応募をお待ちしています。

- 【日時】平成27年12月13日(日)9時~11時30分
- 【場所】川崎防災センター(川崎支所南隣)
- 【申込】定員20名/12月10日締切
- 【料金】一人700円(保険料・材料費)※親子で参加は100円引き
- 【問合せ】NPO法人北上川サポート協会
- 【電話】0191-36-5666

東山

地球っ子広場・ピースランド

石と賢治のミュージアムは、晩年の宮沢賢治が技術師として働いた旧東北砕石工場とその関連資料の展示やイベントを行っており、太陽と風の家があります。今回は誰でも簡単な羊毛フェルトコースターの製作体験を実施します。

- 【日時】平成27年12月20日(日)10時~12時
- 【場所・問合せ】石と賢治のミュージアム
- 【申込】12月13日申込締切
- 【料金】200円(材料費)
- 【電話】0191-47-3655

一関

まちづくりコーディネーター養成講座

第6回となる今回の講座は、情報発信のススメについて。近年は紙媒体の他にもインターネットなど様々な情報発信手段があります。各種手段の基本的な使い方や注意点を共有します。

- 【日時】平成28年1月9日(土)9時20分~12時
- 【場所】なのはなプラザ4階共同会議室
- 【料金】2,000円(全6回)
- 【問合せ】いちのせき市民活動センター
- 【電話】0191-26-6400

大東

興田神社蘇民祭

正月厄除の行事として開催。上半身裸の厄男たちを中心に、お守りの入った袋を争奪する勇壮な祭り。夜明け前から早朝まで地元興田神社や地域住民の尽力により伝統を引き継ぎ開催されています。

- 【期日】平成28年1月10日(日)
- 【場所】一関市大東町鳥海 興田神社~八日町
- 【料金】無料
- 【問合せ・電話】090-4678-9402(オハラ)

千厩

Hana金!

参加者同士の自然な会話・交流の中で、お悩みの解決策を探ったり、企画を膨らませたりしていく、新しいよう自然な空間です。誰でも自由に参加出来ます。話したい人はもちろん、聞きたい人も!今回は「アイデア絞り大会」♪

- 【日時】平成28年2月19日(金)18時45分~21時
- 【場所】せんまやサテライト
- 【料金】300円(コビル・ドリンクつき)
- 【問合せ】せんまやサテライト
- 【電話】0191-48-3735

今月の表紙



花泉地区の清水集落に立つ「かさこじぞう」。ここは民話「笠地蔵」発祥地の一つと言われ、この民話を伝え残そうと地元の人たちが建立しました。地域を見守るように佇むお地蔵様は、道行く人たちの心も和ませています。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q イベント情報はどこで掲載してもらうの?

A いちのせき市民活動センターでは、一関市内の各地で開催されるイベント情報を発信しています。ホームページや情報誌 idea に掲載を希望する場合は、下記連絡先に「①名称②日時③場所④料金⑤問い合わせ先⑥その他」をお知らせください。簡単なA4サイズのチラシを作成すると周知がスムーズになります。

